

認定看護師の
活動について

緩和ケア 認定看護師の 活動について

3階南病棟 看護師 寺戸 純子

緩和ケアとは

がんと診断されたその時から人生最期の時を迎えるその時まで、患者と家族の意思を尊重し、その人らしい生を支えることを目標としています。

2012年に緩和ケア認定看護師になりました。緩和ケア認定看護師の役割は、がん患者の身体や心のつらさを少しでも和らげて治療に取り組めるようにしていくことや病気と共にその人らしく生きていくことを、患者と家族の意思を尊重しながら一緒に考えていきます。また、緩和ケアに携わる看護師の指導・相談を通して、緩和ケアの質の向上に貢献する専門職です。私が、現在取り組んでいる活動を紹介します。

1. 一般病棟での緩和ケア指導の実施

私は、外科・消化器科病棟にて勤務しています。がん治療には、手術療法・化学療法・放射線療法があります。当病棟のがん患者の割合は4割と多く、診断時・治療期・治療中断時・終末期という、さまざまな患者へのケアが必要とされます。急性期病棟でもあり、各時期のケア方法など看護師の指導や相談を行なっています。

当病棟では今年度より、早期からの緩和ケアが受けられるように、入院時からがん患者の苦痛と症状、不安などの評価をおこなうために緩和ケアアセスメントツール(STAS-J 図1)を導入しました。この評価により、入院時からがんにもなう症状が患者に及ぼす影響が0ではなく、何かしら症状があることが分かりました。例えば、このアセスメントツールを使用して評価を行うことで、患者や付き添う家族の不安があることが分かり、不安の緩和のための計画を早期から立て、不安の軽減に努めました。また、痛みや嘔気などの苦痛症状のある患者に対し、早期から緩和ケアチームに介入を依頼出来ることや、ケア方法などの相談を行うことができます。

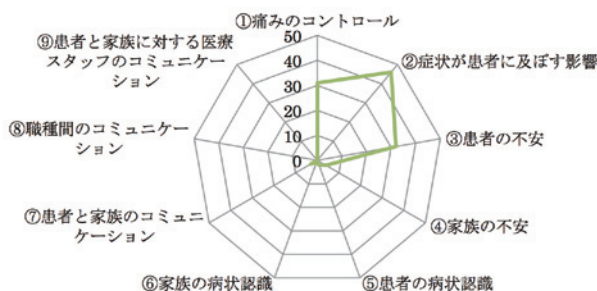


図1 緩和ケア アセスメントツール (STAS-J)



早期から緩和ケアを行うことで、がん治療中のQOL(生活の質)低下が予防できることや疼痛管理などを行なうことで、がん患者の生命予後が延長すると言われていきます。病気の時期にかかわらず早期から緩和ケアが受けられるように、がん患者をアセスメントしてケアをしていく必要があると考えています。

2. 苦痛や症状緩和のための緩和ケア チームラウンド指導の実施

緩和ケアチームの一員としても活動をしています。毎週木曜日に緩和ケアチームのラウンドとして病棟を回り、がんに伴う身体的痛みや嘔気、倦怠感などの苦痛症状、不安や心のつらさなどに対して病棟看護師から相談を受け、直接病室訪問を行い看護ケアへの介入や指導をしています。緩和ケアチームは、放射線科医師と麻酔科医師を中心に、薬剤師、栄養士、がん相談支援員、病棟看護師と多職種でおこなっています。各々の専門的知識で患者さんを診ることによって身体的・心理社会的苦痛の緩和やその人らしさを見つけ出すケアに繋げることが出来ます。

私の役割は、『患者さんの苦痛を緩和することと、その人らしく生きられるようにお手伝いをする』だと思っています。日々の出会いを大切にしながら、少しでも患者さんやご家族の希望に沿えるよう皆様と共に考えさせていただきたいと思っています。

